

キジバト *Streptopelia orientalis* (雉鳩)



(撮影：戸谷)

識別のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・首に水色と黒の縞模様がある。 ・「デーデーッポッパー」と鳴く。 																																				
大きさ：大人の握りこぶし2つ分くらい 生息環境：低地～亜高山 繁殖場所：樹上 餌：植物の実 鳴き声：「デーデーッポッパー」など	天竜川における生息時期 <table border="1"> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="background-color: #e0f2f1;"></td> <td colspan="4" style="background-color: #4db6ac;"></td> <td colspan="4" style="background-color: #e0f2f1;"></td> </tr> <tr> <td colspan="12" style="text-align: center;">繁殖期</td> </tr> </table> 渡り区分：留鳥	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12													繁殖期											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																										
繁殖期																																					

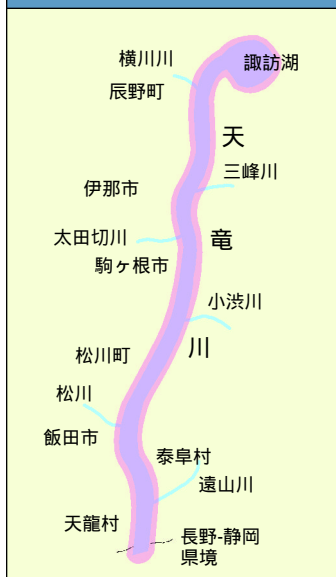
一般習性・分布

- ・留鳥として低地から山地の林に生息し、市街地にも普通に見られる。亜高山帯の山小屋のまわりなどにも見られ、日本で最も多様な環境に生息する鳥のひとつ。畑地や河原の周辺には特に多い。
- ・樹上に枯れ枝を組み合わせ、浅い皿状の巣を造る。
- ・木の枝や電線にとまって、喉を膨らませて「デーデーッポッパー」と鳴く。
- ・ドバトとならんで日本人になじみの深い鳥であり、本書でも大きさの基準としている。大きさはドバトよりもやや小さい。

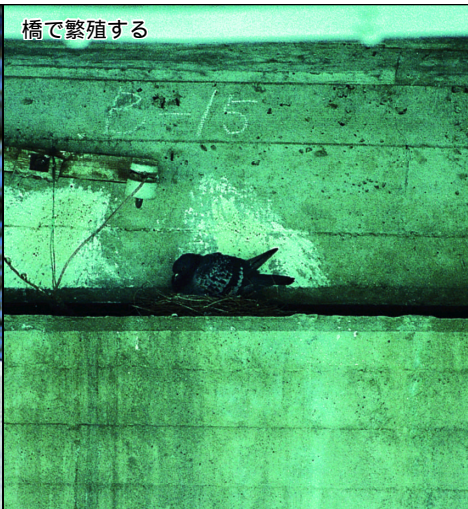
天竜川上流における生息状況

留鳥として全域で数多く見られる。巣はハリエンジュの樹上約2m程の高さに造られていることが多い。河川敷の草地や林床で歩いて餌をとっている姿がよく見られる。

天竜川上流における分布



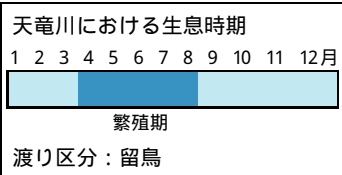
ドバト *Columba livia* var. *domestica* (堂鳩)



橋で繁殖する

識別のポイント ・羽色は灰色のものが多いが、白、うす茶、濃い灰色などさまざま。

大 き さ : キジバトよりやや大きい
 生息環境 : 市街地、耕作地など
 繁殖場所 : 構造物のすき間など
 餌 : 植物の実や種子など
 鳴 き 声 : 「ポー」「グルックク」など

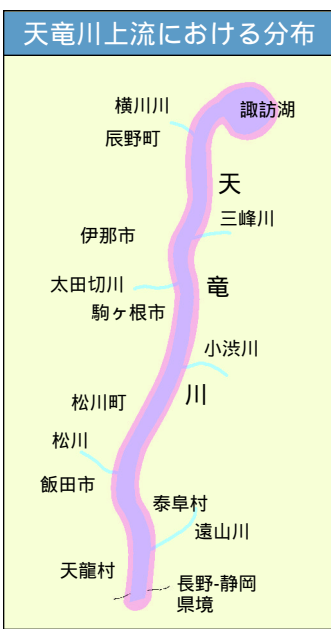


一般習性・分布

- ・留鳥として市街地を中心に生息している。
- ・建物のすき間に草やゴミなどを用いて巣を造る。
- ・色彩は変化に富んでおり、灰色、白、うす茶、濃い灰色などさまざまである。
- ・カワラバトを原種として家禽化され、伝書鳩、レース鳩などとしてさまざまな改良が加えられている。平和の象徴とされ、かつて式典などで盛んに放鳥されたが、駅舎や寺社でのフン公害が問題となり、近年はあまり放鳥されていない。

天竜川上流における生息状況

留鳥として全域でみられるが、市街地に接した区間に多い。橋の裏側にごく簡単な巣をつくる。数十羽の群れが上空を飛び回っているのがよく見られる。



カッコウ *Cuculus canorus* (郭公・閑古鳥)

識別のポイント

- ・「カッコウ、カッコウ」と鳴く。
- ・長い身体を水平にしてとまる。

大きさ：ハトより小さい

生息環境：低地～山地の明るい林や草原

繁殖場所：他種の巣へ托卵

餌：昆虫など

鳴き声：「カッコウ、カッコウ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



繁殖期

渡り区分：夏鳥

一般習性・分布

- ・低地から山地のヨシ原、木のまばらにある草原などに夏鳥として渡来する。人里でも見られる。
- ・自分では営巣しないで他の種の巣に卵を産み込む(托卵)。育ての親としては現在、モズ、ホオジロ、アオジ、オオヨシキリ、オナガなどが知られているが、これらの中にはカッコウを攻撃したりして産卵されるのを防いだり、カッコウの卵を識別して巢外に捨てるなどの対策をとるようになるものもいる。このため、長い年月の間に托卵の相手は変化しているものと考えられる。
- ・オスは「カッコウ、カッコウ」という特徴のある声で鳴く。「ピピピピピ」と言う声も出す。

天竜川上流における生息状況

夏鳥として5月から8月頃、全域で見られる。天竜川ではモズやオオヨシキリ、ホオジロなどに托卵しているものと考えられる。これらが繁殖している開けた草地やヨシ原、ハリエンジュ林の周辺で盛んにさえずっている。

天竜川上流における分布



コラム たねま種蒔きを知らせる鳥 - カッコウ

カッコウは全長35cm程の、ハトよりやや小さい鳥です。姿を見たことのない人でも、「カッコー、カッコー」と鳴くその特徴のある声を聞いたことがあるでしょう。伊那谷には夏鳥として、5月10日前後に渡来します。

伊那谷ではカッコウのことを『マメマキ』とか『マメドリ』と呼んでいます。これは、豆などの種を蒔く時期とカッコウの鳴き声の聞かれ始める時期が一致していたからです。昔から「カッコウが鳴くと霜が降りない」（飯島町鳥居原）、「カッコウが鳴くと蒔きものがいいよ」（箕輪町上棚）、「カッコウが鳴いたら、かついでいる鍬を置いても豆をまけ」（伊那市大坊）などと言われ、カッコウの初鳴きを種蒔きの目安にしています。

カッコウの鳴き声は、渡来後から7月にかけてさかんに聞かれますが、8月下旬にはもう聞くことができなくなります。このように限られた期間、私たちに親しみのある鳴き声を聞かせてくれる鳥です。

（吉田保晴）



アオバズク *Ninox scutulata* (青葉木菟)



成鳥

(撮影：山上)



巢内のヒナ

(撮影：山上)

識別のポイント

- ・「ホッホッ、ホッホッ」と二声ずつ鳴くハトくらいの大きさのフクロウ。

大きさ：ハトと同じくらい

生息環境：低地～山地の森林

繁殖場所：森林内の樹洞

餌：昆虫、鳥類、両生類など

鳴き声：「ホッホッ、ホッホッ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



繁殖期

渡り区分：夏鳥

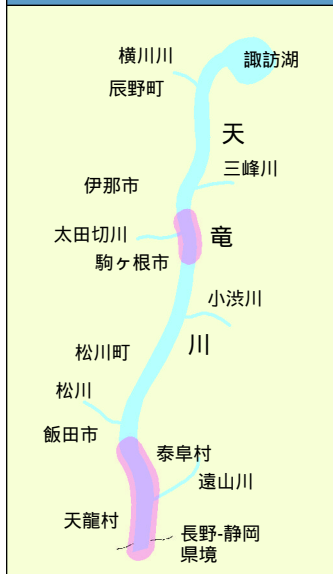
一般習性・分布

- ・夏鳥として低地から山地の林に生息する。神社や寺の林にも生息し、最もなじみ深いフクロウ。
- ・自然にできた木の穴（樹洞など）に営巣する。
- ・日中は木の枝にとまり、夜間に活動して大型のガ、セミ、コガネムシなどを主として捕まえるが、小鳥やネズミを捕らえることもある。
- ・近年、市街地では神社などでも大木が減りつつあり、個体数が減少している。

天竜川上流における生息状況

河川内には樹洞を持つような大木がないため、広く開けた区間では見られない。天龍村や天竜峡、吉瀬ダムなどの森林が河岸に接した区間では夜間、声が聞かれる。

天竜川上流における分布



ヤマセミ *Ceryle lugubris* (山翡翠)



(撮影：戸谷)



(撮影：山上)

識別のポイント

- ・全身に白と黒の縞模様があり、頭の羽毛が逆立っている。
- ・ハトくらいの大きさの大型のカワセミ類。

大きさ：ハトと同じくらい

生息環境：河川の上流、渓谷、ダム湖

繁殖場所：土壁

餌：魚など

鳴き声：「ケレツ、ケレツ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



繁殖期

渡り区分：留鳥

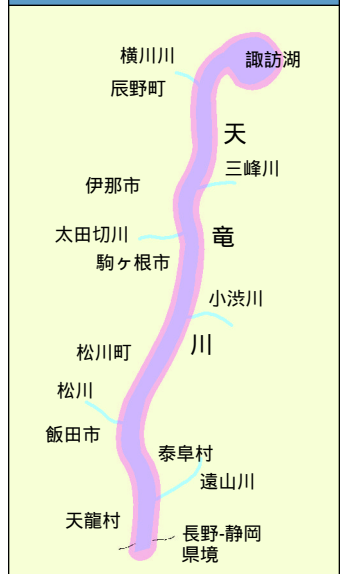
一般習性・分布

- ・低地から山地の河川や湖に生息する。一般に河川の上流域に生息する鳥であり、生息環境の変化と共に個体数は減少したと言われてきた。しかし近年は中下流域でも採餌が見られるようになり、分布は拡大傾向にある。ダム湖でもよく見られる。
- ・土壁に横穴を掘って巣を造る。
- ・「ケレツ、ケレツ」と鳴きながら翼をゆっくり羽ばたき、直線的に飛ぶ。

天竜川上流における生息状況

個体数は少ないが、留鳥として全域に生息する。これは、伊那谷を流下する天竜川上流における鳥類相の一つの特徴と言える。つまり、広く開けた河道の区間と狭窄部が交互にあらわれ、段丘崖が多く見られる地形は、ヤマセミにとって良好な生息環境であると考えられる。平岡ダムや南宮大橋、天竜峡、吉瀬ダム、北の城橋、辰野町羽場などでは比較的頻繁に見られる。

天竜川上流における分布



アカショウビン Halcyon coromanda(赤翡翠・みずこいどり)

巣立ちピナに餌を与える親鳥



(撮影：戸谷)

識別のポイント

- ・明け方や夕方に「ピルルルル…」と鳴く。
- ・くちばしが長く、全身が朱色と赤紫色の羽根に覆われたカワセミ類。

大きさ：ハトより小さい

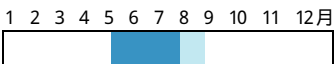
生息環境：渓流やその周辺の森林

繁殖場所：森林内の樹洞

餌：魚、サワガニ、カエル、カタツムリ、昆虫など

鳴き声：「ピルルルル…」(尻下がり)

天竜川における生息時期



繁殖期

渡り区分：夏鳥

一般習性・分布

- ・低地から山地のよく茂った林の渓流に夏鳥として渡来するが、個体数は少ない。また天気の良い日の日中はあまり鳴かず、早朝や夕方、あるいは雨の日に鳴き、開けた場所に姿を見ることが少ないため、あまり目立たない。
- ・樹洞、あるいは腐った太い木の幹にくちばしで穴を掘って巣を造る。

天竜川上流における生息状況

天龍村や阿南町では、5月から梅雨の頃、早朝に声を聞くことができる。飯田以北の天竜川には現在のところ生息していない。深い森の中にひっそりと生息しているため、目にすることは極めて稀であるが、天龍村では人家の周辺でも見られることがある。

天竜川上流における分布



カワセミ *Alcedo atthis* (翡翠)



識別のポイント

- ・青（緑）や朱色の華やかな色彩を持つ。
- ・「チー」と鳴きながら、速く直線的に飛ぶ。

大きさ：スズメくらい
 生息環境：河川、湖沼など
 繁殖場所：土壁
 餌：魚など
 鳴き声：「チー」「ツイチー」など

天竜川における生息時期



繁殖期

渡り区分：留鳥

一般習性・分布

- ・留鳥として川、湖沼など水のあるところに生息する。
- ・赤土の土手にくちばしで穴を掘り営巣する。
- ・水の上の枝、水中に立っている杭などにとまって魚を狙い、急降下して捕らえる。空中で停空飛翔をしてから急降下する場合もある。
- ・1960年代から営巣地である河岸のコンクリート護岸化や水質の悪化により著しく減少したが、近年は都市部の多少水質の悪い場所でも、餌となる魚がいれば再び見られるようになってきた。

天竜川上流における生息状況

留鳥として全域に生息する。支川の合流部で、河岸が切り立った土壁になっている場所に営巣していることが多い。高森町市田では人工巣での繁殖が成功している（P.72参照）。

天竜川上流における分布



コラム 人工巣で繁殖したカワセミ

近年、天竜川の河岸でも、カワセミが巣穴を掘ることのできる土でできた壁が少なくなってきています。そこで、建設省天竜川上流工事事務所と高森町役場のご理解とご協力を得て、高森町の天竜川河川敷内に、自然の土手を利用したカワセミの人工巣を造りました。造るにあたり、以下の点に注意しました。

- ・ヘビやイタチに巣が襲われないように、また、増水によって洗い流されないよう、位置や高さに注意した。
- ・正面の池にとまり木を置いた。
- ・巣穴部の土は石が混ざらないようにし、毎年取り替えるようにした（畑の土が適していた）。

このような点に注意して人工巣を造ったところ、早速カワセミが繁殖に取りかかりました。まず、3月末からペアでやって来て、求愛給餌と交尾を重ね、人工巣上部中央に、やや上向きに巣穴を掘り始めました。その後抱卵を始め、20日ほどして親鳥が巣穴から白い殻を運び出したので、ヒナがかえったことがわかりました。

餌運びはオス親とメス親が交代で行い、しだいに運び込む魚も大きなものになっていきました。そして、24日目に待望の巣立ちの日を迎え、合計4羽がこの人工巣から旅立ちました。1回の繁殖期間（巣穴掘りから完全に巣立つまで）は54日ほどでした。そして、1回目の繁殖期間中に、2回目の繁殖のための巣穴掘りに取りかかることもわかりました。

この人工巣の特徴は、人間の方でしっかりとした土壁を用意し、巣穴はカワセミ自身が掘る点です。こうすることで、より自然に近い繁殖が行えるものと考えています。

（山上信雄）



ブッポウソウ *Eurystomus orientalis* (仏法僧)



識別のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・全身が黒っぽく見えるが、光のかげんで紺色や緑色に輝く。くちばしと足は朱色。 ・飛ぶと翼の白い帯が目立つ。
---------	--

<p>大きさ：ハトと同じくらい</p> <p>生息環境：低地～山地の森林</p> <p>繁殖場所：森林内の樹洞、構造物のすき間</p> <p>餌：昆虫など</p> <p>鳴き声：「ゲゲッ、ゲゲッ」など</p>
--

天竜川における生息時期
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月
繁殖期
渡り区分：夏鳥

- 一般習性・分布**
- ・夏鳥として渡来し、特に大木の多い場所を好むので、神社や寺での繁殖も多い。分布は局地的で、生息数は少ない。
 - ・大木の樹洞にあいたキツキの巣穴などに営巣するが、建物のすき間やダム堤体の穴なども利用する。
 - ・餌は昆虫が中心で、飛びながら飛翔昆虫を捕らえることが多い。大型のトンボやコガネムシなどの甲虫も食べる。
 - ・環境庁のレッドデータブックにおいて希少種に指定されている。

天竜川上流における生息状況

平岡ダムから南宮大橋周辺に数つがい繁殖しているものと考えられる。長野県下でも繁殖地は限られており、営巣場所となる大木の減少などから、生息地が減りつつある。天龍村では村役場の建物に営巣した記録がある(P.74参照)。



コラム ダム湖周辺で繁殖するブッポウソウ

ブッポウソウは、本州以南の平地から山地に夏鳥として渡来し、スギ、ヒノキ、モミなどの巨木からなる樹林に生息することが多い鳥です。巣は大木の樹洞やキツキ類の古巣、電柱の穴、建造物のすき間、ダムの排水孔、巣箱などにも営巣します。個体数が少ないので、環境庁のレッドデータブックでは希少種に指定されています。

長野県内では、木曽の三岳村御岳神社、諏訪地方では富士見町三光寺、諏訪市の諏訪大社、岡谷市の小坂観音、北信では小谷村のブナ林で繁殖記録がありますが、いずれも現在は繁殖していません。現在繁殖しているのは、北信にある栄村のブナ林、そして伊那谷の中川村小渋ダム、天龍村、泰阜村、阿南町だけです。

伊那谷での繁殖地の特徴は、他の場所が樹洞で繁殖しているのに対し、そのほとんどが橋やビルに営巣していることです。もう一つの特徴は、いずれもダム湖の近くに繁殖場所があることです。豊かな森林の中にある開けた空間は、ブッポウソウが餌を採るのに都合がよいのでしょう。伊那谷には同じような環境が数多くあります。調査が進めば、新たな繁殖地が見つかるかもしれません。

(桐生尊義)



ビルの排気孔の巣から顔を出すブッポウソウ

コゲラ Dendrocopos kizuki(小啄木鳥)



(撮影：山上)

識別のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・スズメくらいの大きさのキツキ。 ・木の幹と平行にとまることが多い。 ・「ギー」と鳴く。
---------	--

<p>大きさ：スズメくらい</p> <p>生息環境：低地～亜高山帯の森林</p> <p>繁殖場所：森林内の樹木の幹</p> <p>餌：昆虫など</p> <p>鳴き声：「ギー」「ギーツキツキ」</p>	<p>天竜川における生息時期</p> <table border="1"> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="background-color: #e0f2f1;"></td> <td colspan="4" style="background-color: #42a5f5;"></td> <td colspan="4" style="background-color: #e0f2f1;"></td> </tr> </table> <p>繁殖期</p> <p>渡り区分：留鳥</p>	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12														

一般習性・分布

- ・留鳥として低地から山地の林に生息する。近年、市街地の公園や住宅地でも繁殖するようになり、都市への進出しつつある。
- ・秋冬には、カラ類(シジュウカラの仲間)やエナガの群れと一緒にいることが多い。
- ・キツキ類は、さえずりのかわりに枯れ木などを連続して打ち鳴らすドラミングによってなわばりを宣言する。コゲラのドラミングの音は小さく、5～6回の打音が聞こえる程度で短い。

天竜川上流における生息状況

留鳥として全域で見られるが、秋から冬に多い。天竜川上流では、コゲラの他にも身体の大きいアカゲラやアオゲラも見られるが、両種とも森林に接した区間に多い。コゲラは市街地の近くの開けた河川敷にも多い。

天竜川上流における分布

